

いきいき終活セミナー



6月2日(日)午後1時～徳成寺で、記念すべき150回目の寺ともサービス「納骨堂見学会といきいき終活セミナー」が開かれました。150回続いたのも、ひとえに寺ともさん皆様による温かいご支援の賜物と喜んでおります。当日は、あいにく梅雨入りを思わせる弱い雨模様でしたが、参加者の皆さんは、今あるお墓の行く末やご自身の納まり場所など、各々の関心を胸に抱えて来ておられました。その胸につかえた重荷を下ろすお役に立てればと思います。

「いきいき終活セミナー」は、一昨年も来て頂いた小谷みどりさんです。当時の会社を辞され、今現在は、シニア文化研究所の所長をしておられます。「歯に衣着せぬ」という形容詞がぴったりの小谷さんによると、因習として長らく続けられた事柄が、見栄や世間体で支えられていて、必ずしも根拠があるものばかりではないとのご指摘を頂きました。常識の非常識さを知らされることになり、一同カルチャーショックを受けましたね。



小谷さんから「仮に今晚、あなたが亡くなったとして、お通夜に何人の親戚が来ますか？」と問いを参加者に投げかけられ、さらに「20年後その親戚はどうなってますか？」と畳み掛けられました。普段考えたことのない問いに、皆さん内心戸惑ったのではないのでしょうか。



親も子も高齢化する中で、葬儀もお墓も形態が変化せざるを得ない時代だということです。小谷さんに促され、住職である私の葬儀に対する考え方や納骨堂への思いをお話する時間を設けて頂きました。皆さんからのご意見・ご相談もお待ちしています。